



厚生労働省 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業

北海道・北東北ブロック報告書

アールブリュット推進センターGently

北海道 東区



はじめに

令和4年度はそれまで中止を余儀なくされていたイベントが徐々に再開されるようになり、本事業においてもブロック合同展を2年ぶりに開催し、多くの人に作品を間近で見いただくことができました。アール・ブリュットショウケースについては感染予防とアクセシビリティの両方の観点から今年度もYouTubeを活用したオンライン開催とし、動画ならではの魅力と工夫にあふれる作品を配信しました。また支援センターが設置5～6年目にさしかかり、現在の取り組みと成果に焦点をあてることで今後を展望する事業となることを目指しました。

本書では、令和4年度北海道・北東北ブロック広域センターの取り組みをまとめるとともに、青森県、岩手県の各支援センターの取り組みもあわせて紹介します。本書が障害者の芸術文化活動支援についての一助となれば幸いです。最後になりましたが、本ブロック事業や本書作成にご協力いただいたみなさまに心からお礼申し上げます。

目次

はじめに	1
I. 障害者芸術文化活動普及支援事業とは	2
II. 北海道・北東北ブロックについて	2
III. 広域センターの取り組み	
1. 2022年の概要	3
2. 発表の機会の確保 舞台芸術	4
発表の機会の確保 美術分野	10
3. ブロック研修	18
4. 支援センターへの支援	20
5. 未実施県への支援	21
6. ブロック内連携の推進	25
7. 情報収集・発信	26
8. 事業評価委員会	27
まとめ	29
IV. 支援センターの取り組み	
青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)	30
岩手障がい者芸術活動支援センター くだあると	34
センター一覧	40

I . 障害者芸術文化活動普及支援事業とは

厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」はさまざまな障害者が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるよう、地域における障害者の芸術文化活動を支援する体制を全国に普及し、障害者の自立と社会参加を促進することを目的としています。

2014(平成26)年から3年間を通じて全国12カ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに、2017(平成29)年から実施しています。

「都道府県」、「ブロック」、「全国」という3つの活動エリアが設けられ、それぞれのエリアに支援センター、広域センター、連携事務局といった支援の拠点が設置されます。2022(令和4)年度は、40都道府県に支援センターが設置されたほか、広域センター7ブロックおよび連携事務局が設置され、活動を行いました。

II . 北海道・北東北ブロックについて

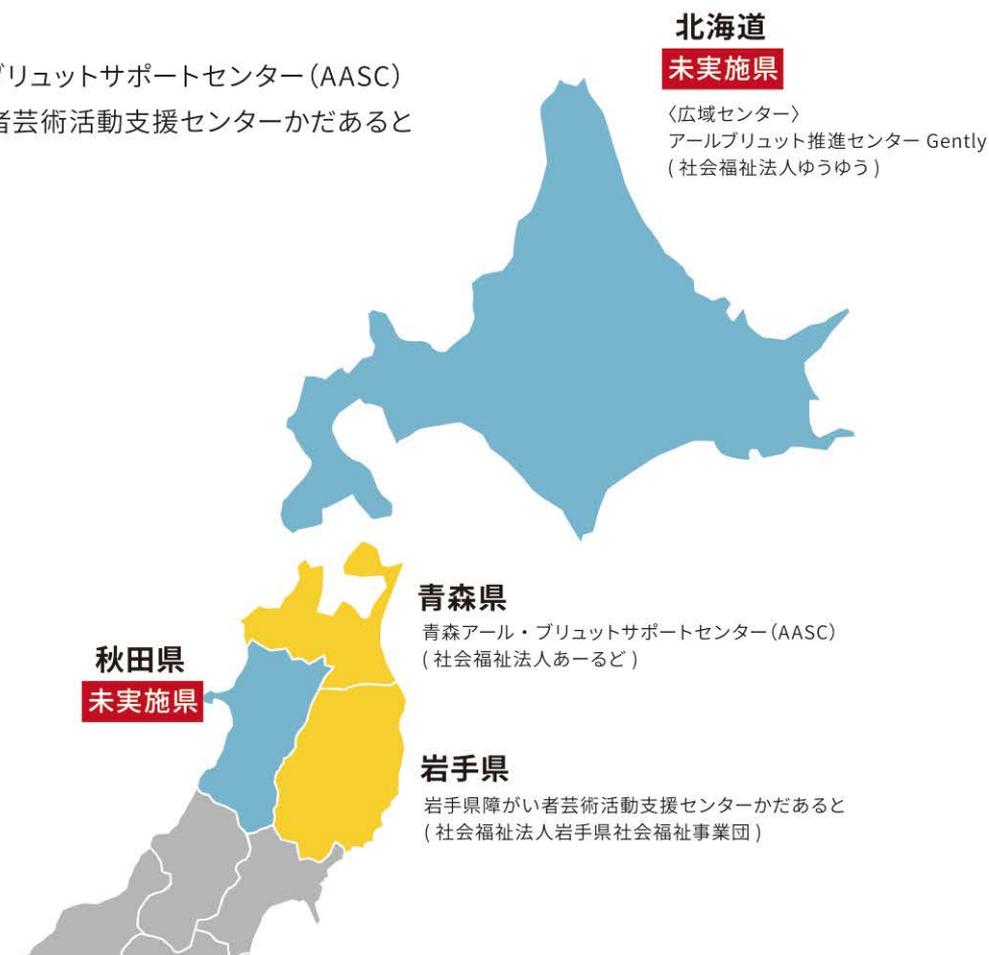
北海道・北東北ブロックは北海道・青森・岩手・秋田の1道3県で構成され、前年度に引き続き青森と岩手に支援センターが設置され、社会福祉法人ゆうゆうが広域センターとして採択されました。北海道・秋田は未実施という状況が続いています。

〈広域センター〉

- アールブリュット推進センター Gently

〈支援センター〉

- 青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC)
- 岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあと



III. 広域センターの取り組み

1. 2022 年度の概要

〈発表の機会の確保〉

- 舞台芸術分野：アール・ブリュットショウケース 2022 オンライン「舞台上がれ！」
- 美術分野：北海道・北東北の福祉とアート「届けたい 私たちが出会った表現」(秋田県・青森県)

〈ブロック研修〉

- 相談支援勉強会 第一回 商品開発 第二回 創作支援 第三回 法律相談
- 舞台芸術研修
- 美術研修

〈支援センターへの支援〉

- 「障害者の芸術文化活動フォーラム」(青森県)

〈未実施県への支援〉

- 北海道** ●北海道障がい者のアート展(11月・3月)
- 「ほっかいどうナイスハートバザール in アリオ札幌」特別展示
 - 北海道の作家を紹介する継続的な展覧会
- 秋田県** ●北海道・北東北の福祉とアート「届けたい 私たちが出会った表現」展の開催を通じた事業の発信
- 共通** ●支援センター設置に向けた伴走
- 相談支援

〈ブロック内の連携の推進〉

- ブロック連絡会議

〈情報収集・発信〉

- ホームページと SNS の活用
- 広報物の発行

〈事業評価〉

- 事業評価委員会

●実施状況



2. 発表の機会の確保(1)

舞台芸術分野

厚生労働省 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業 北海道・北東北ブロック

アール・ブリュット ショウケース2022 オンライン「舞台に上がれ！」

今年度で5回目となるショウケースは、北海道・青森県・岩手県・秋田県で音楽や演劇、ダンスなどステージに関する芸術文化活動を行う障害のある人たちのための発表会。コロナ禍をきっかけに始まったYouTubeチャンネルでの動画配信は3回目となります。今回は公募部門13組、招待部門4組、計17組がそれぞれの場所から工夫を凝らした素敵なステージを届けてくれました。



● 概要

視聴はこちらから



【公開開始】2023年1月21日(土) ※終了期限なし

【公開場所】アールブリュット推進センターGently YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLgjWAqL3DZxNb4I9xd2VSORdJ6mQzBs3J>

【主催】社会福祉法人ゆうゆう

【協力】社会福祉法人あーと、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団、北海道アールブリュットネットワーク協議会

【後援】秋田県、北海道

【助成】厚生労働省令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業

【関連企画】オンライントーク「今年度の見どころ紹介」

実施成果

【出演者数】招待部門4組、公募部門13組 計17組

※地域別：北海道11組、青森県3組、岩手県2組、秋田県1組

※初参加：5組

【視聴回数】2022年度作品合計 3,563回(1月21日～3月31日)

公募部門

【公募期間】2022年10月20日～12月2日

【対象】北海道・青森県・岩手県・秋田県でステージに関する芸術文化活動を行っている障害のある方／

個人または、障害のある方が参加する団体

招待部門

【選考】

下記項目に1つ以上当てはまることを条件として、支援センターが複数組をリストアップした上で、ブロック内支援センター3団体で協議し、道県各1組、計4組を決定。

- (1) 独自性・個性のある取り組み
- (2) 10年以上取り組んでいる
- (3) 地域などで行われるイベントでの受賞歴がある
- (4) 県外(ショウケースは除く)での発表経験がある
- (5) 障害理解を推進するような活動である

【映像制作】

招待部門は広域センターが動画制作を行い、出演者の作品・パフォーマンスに加えて、作品の背景や出演者の舞台活動への思いなどを伝えるため、インタビューも盛り込みました。また制作にあたっては、感染拡大防止の観点から道県ごとに地元の映像ディレクターへ依頼し、地元となる各支援センターの協力のもと、リモートで進められました。

● 報告・解説

今年度は、コロナ禍で会場を使用したイベント開催の見通しが難しい状況を鑑み、また当ブロックの広域性やこれまでの応募状況をふまえ、前年度同様、YouTubeチャンネルにてオンライン上で開催としました。招待部門では、支援センターの推薦リストから各1団体を選考し、主催者がその映像を制作しました。制作にあたっては、県を超えた移動を希望しない団体もあり、制作は各道県の人材で行いました。各支援センターは地元団体の制作に協力。公募部門は、一般公募により13組の参加を得ました。

前回同様、誰でも日頃の活動成果を発表できる敷居の低さが、年齢や技術を問わず幅広い方々の発表につながったと思われる。特に今年度は取り組みの遅れていた青森県において新規の参加2組があった他、公開後に参加希望の問い合わせもあるなど、舞台芸術分野における関心の高まりが期待されます。研修や事業への参加を重ねたことも支援センターの意識変化を促し成果につながっていると考えられます。

● 出演者紹介

[招待部門]



ダンス

北海道紋別高等養護学校 新体操部 [北海道]

北海道紋別高等養護学校 新体操部

私たちは女子8名男子2名の計10名で週4日、1時間程度練習をしています。今年度は、7月24日に江別市で行われた第29回北海道新体操大会と10月16日に紋別市で行われた第68回紋別市民芸術祭に出場しました。紋別市民芸術祭では、卒業生1名とコラボレーションをしました。



伝統芸能・ダンス 初参加

チームこぶし [青森県]

演舞よさこい「アジアの海賊」、「Street of the Soran」

椎茸栽培やさらしの花ふきんなどを作っている障がい者支援事業所です。

2011年 毎週木曜日の午後のカリキュラムでダンスを始める。

2016年～AOMORI春フェスティバルにチームこぶしとしてよさこいで出演。

2022年(2019年～2021年はコロナ禍の為中止)

その他、多数イベントでよさこいなどのダンスなどを披露しています。



音楽 初参加

KING GUNS and ROGUE GUNS (キングガンズ アンド ローガンズ) [岩手県]

つじあやの「風になる」

スピッツ「空も飛べるはず」他

岩手県立盛岡聴覚支援学校の中学生と職員を中心に2019年に結成。その後岩手県障がい者芸術祭ふれあい音楽祭2019・2022、いしがきミュージックフェスティバル2019・2022に出演。たくさんの方々の協力や応援のもと、いろいろな人と「音を楽しむ」ことを目指し活動中。



ダンス

NPO 法人逢いダンスチーム [秋田県]

アフリカダンス

私たちは秋田県にあるNPO法人逢いのダンスが好きなメンバーです。

月1回の練習を2年間続けてきました。北国秋田から私たちの熱気あふれるアフリカダンスをお届けします！

[公募部門]



浅利かれん

[青森県]

ピアノ演奏

音楽



札幌なかまの杜クリニック
ボイトレ部

バーチャル合唱

札幌なかまの杜クリニック

ボイトレ部 [北海道]

バーチャル合唱「花は咲く」「青の絆」

音楽



菅家正幸

[北海道]

菅家正幸民謡ライブ〜コロナあっちいけ!〜

音楽



sato

[北海道]

ピアノソロ 半崎美子「感謝の根」、いきものがかり「ありがとう」

音楽

初参加



佐々木あおい / 銀ノ揺らぎ

[北海道]

砂丘ロイド

音楽



障がい者支援センターキラリ

[北海道]

合唱

音楽

初参加



さっぽろ太鼓衆 風

[北海道]

村馬流八丈太鼓「勇吉」

伝統芸能



鈴木工

[北海道]

放課後等デイサービスほたて児童の作品

伝統芸能

[公募部門]



高館将太

[岩手県]

将太 2022

音楽



山中次元

[青森県]

次元爆弾

音楽

初参加



ハンディキャップシアター

Show Time [北海道]

ヒロキの陰謀

演劇



ラン&ドリーの仲間たち

[北海道]

歌とダンスショー

音楽・ダンス



ひがし町パーカッション

アンサンブル [北海道]

こんなセッション どうで show?

音楽

関連企画「オンライントーク今年度の見どころ紹介」

今年の全ラインナップを紹介するとともに、北海道・北東北における舞台芸術の取り組みについて掘り下げました。

【出演】

金野有実(岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあと／社会福祉法人岩手県社会福祉事業団)

錠前一真(青森アール・ブリュットサポートセンター [AASC]／社会福祉法人あーど)

大友恵理(アールブリュット推進センター Gently／社会福祉法人ゆうゆう)

The image displays four screenshots from a video presentation. The top-left screenshot shows a video call with three participants: a woman on the left, a man in the center, and a woman on the right. The top-right, bottom-left, and bottom-right screenshots show slides from a presentation titled "アール・ブリュットショーケース2022 オンライン「舞台に上げれ!」今年度の見どころ紹介".

- The top-right slide features the text "楽しさ いっぱい!" and shows photos of a group of people, with the caption "障がい者支援センター キャラリ (北海道)".
- The bottom-left slide features the text "グループのパワー" and shows photos of several groups, including "NPO法人 だんすチーム (秋田県)", "チームこぶし (青森県)", "札幌なかまの杜クリニック ボイトレ部 (北海道)", and "ひがし町パーカッションアンサンブル (北海道)".
- The bottom-right slide features the text "魅せる! 聴かせる!" and shows photos of individuals performing, including "鈴木工 (北海道)", "高館何太 (岩手県)", "sato (北海道)", and "浅利かれん (青森県)".

2. 発表の機会の確保(2)

美術分野

厚生労働省 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業 北海道・北東北ブロック

届けたい 私たちが出会った表現

北海道・北東北の福祉とアート

北海道・北東北にある3つの「支援センター」が活動を通して出会った作品を紹介しました。アールブリュット推進センターGentlyからは、オンライン作品展「ダレカガナニカヲツクッテル」より新たに出会った作品を中心に展示。青森アール・ブリュットサポートセンターからは、公募展「ありのままの表現展」からピックアップした作品を展示。岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあるとからは、「岩手県障がい者文化芸術祭」より最優秀賞に輝いた作品を展示。そして地元秋田県からは昨年度「秋田県障害者芸術福祉展」知事賞受賞作品を展示しました。会場でたくさんの表現との出会いを楽しんでいただけるよう企画しました。



秋田展

【会期】2022年9月22日(木)～9月28日(水)

【会場】秋田市文化創造館3階 スタジオA3

【出展作家】21名

【作品数】71点

【来場者数】327人(7日間)

青森展

【会期】2023年3月4日(土)～3月10日(金)

【会場】Gallery CASICO 〒036-8093 青森県弘前市城東中央4-2-11

【作家数】21人

【作品数】41点

【来場者数】135人

【主催】社会福祉法人ゆうゆう、社会福祉法人あーると、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

【後援】北海道、青森県、秋田県、岩手県

【助成】厚生労働省 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業

関連企画「福祉とアートをめぐる座談会」

支援センターが日頃取り組んでいる相談窓口でのエピソードや、研修会から生まれた表現について、それぞれが取り組む公募展の特徴など、福祉とアートをめぐる話題を取り上げました。

【日時】9月25日(日)13時～14時30分

【登壇者】

大塚千枝(日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS パフォーミングアーツ事業部長、元厚生労働省障害者文化芸術計画推進官)

錠前一真(青森アール・ブリュットサポートセンター)

金野有実(障がい者芸術活動支援センターかだあと)

【進行】大友恵理(アールブリュット推進センター Gently)

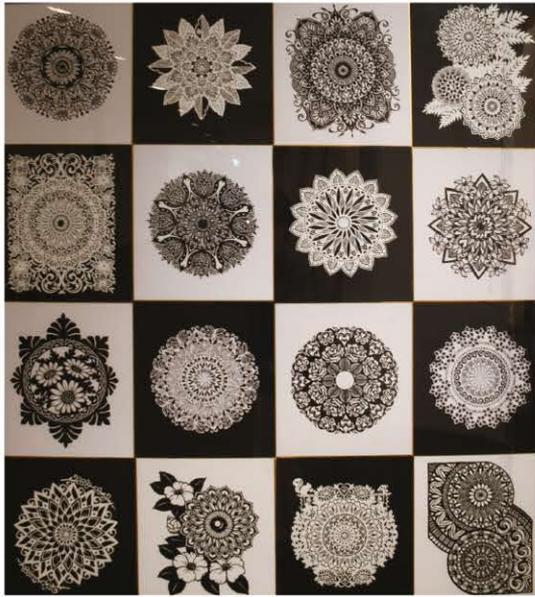


● 報告・解説

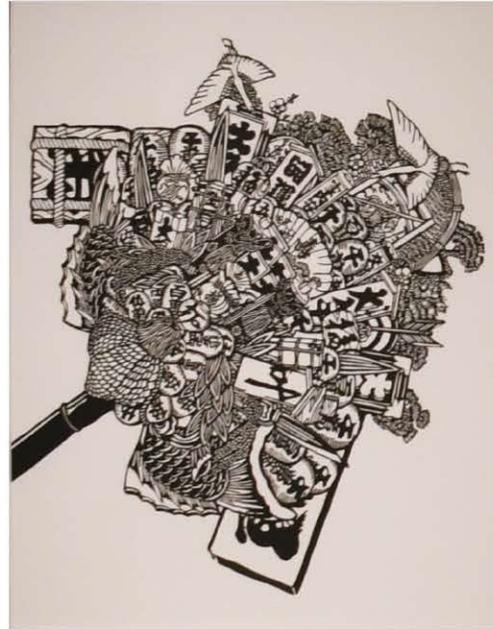
ブロック内支援センターおよび未実施県と協働し、合同展覧会を開催。とくに稼働中の2つの支援センターの取り組みに焦点をあて、未設置県である秋田県でセンター設置の機運を醸成することを狙いとしてきました。地元新聞紙にも取り上げられ、非常に良い反応をもって受け入れられたことがアンケート結果から読み取れます。また、2年ぶりの現地開催となり、開催地2都市において

ブロック内の質の高い作品に直接触れる機会を作ることができました。参加した各センターにおいては、テーマの主語を「私たち」として、それぞれの事業と作家のつながりに注目することで、地域の作家との出会いや支援のニーズなどセンターの活動を振り返り発信する機会としました。

● 出展作品紹介



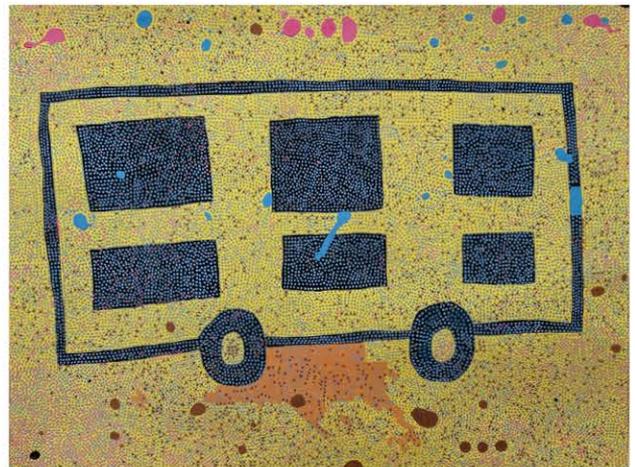
秋田 佐々木良雄
「切り絵・花曼陀羅」



秋田 伊藤拓也
「縁起熊手」



秋田 千葉郁子
「さわやかな夏の朝」



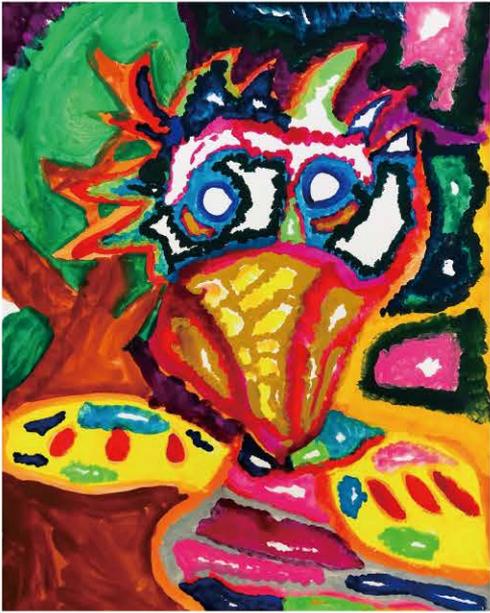
青森 葛西優
「バス」



青森 成田健太郎
「風景」



青森 成田堯生
「DOK97W4Z ゼネ式」



青森 yukari
「自然界の植物たち・動物たち」



青森 福士大地
「集合写真」



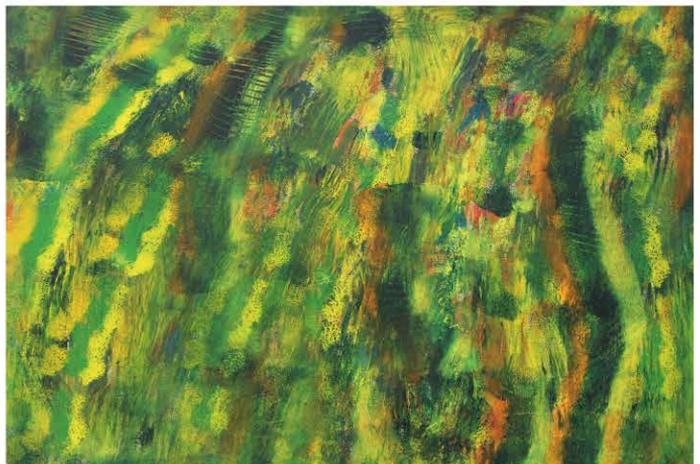
岩手 堀内育子
「美輪明宏『花言葉』より」



岩手 阿部佳則
「岩手銀行・赤レンガ館(旧中ノ橋支店)」



岩手 佐々木ちま
「Heaven's Door 7」



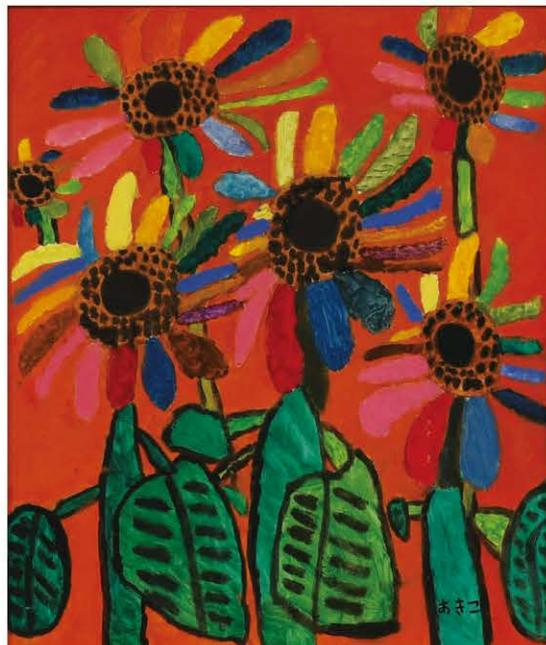
岩手 太布正孝
「ナスとカボチャ」(カボチャ)



北海道 hatakippei
「KR 東日本『三方線・阿方駅付近の情景[架空の町]』」



北海道 赤坂良子
「まんだら刺繍」



北海道 仁井田晶子
「ひまわり」



北海道 長谷川和子
「花ばたけ」



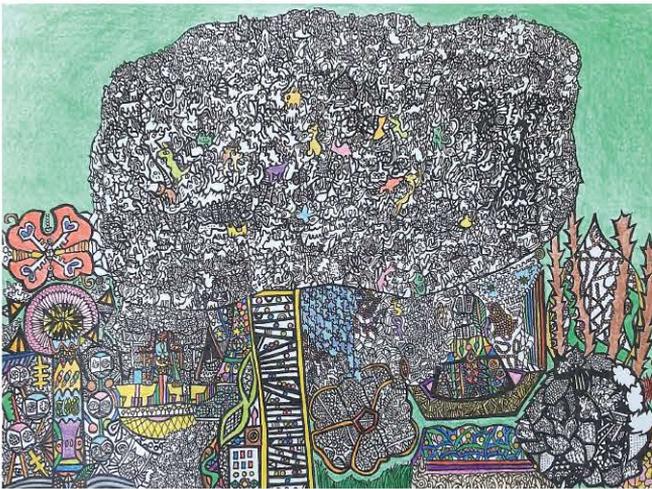
北海道 加藤知也
『愛にすべてを』



北海道 マクラメブルー
「天然石(タイガーアイ)と
エゾシカの角を包んだマクラメネックレス」



北海道 flatman.
「The incomprehensible multiverse
(理解できない多元宇宙)」



北海道 sato
「MYハウス」



北海道 松館舞奈
「冬」

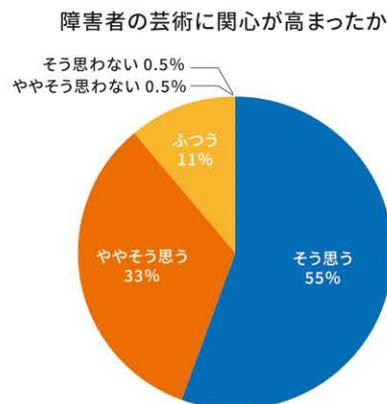
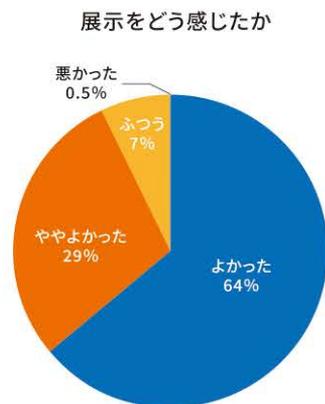
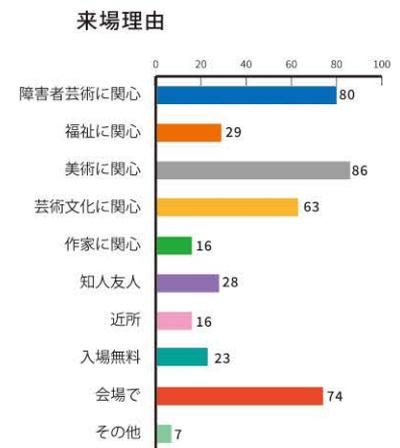
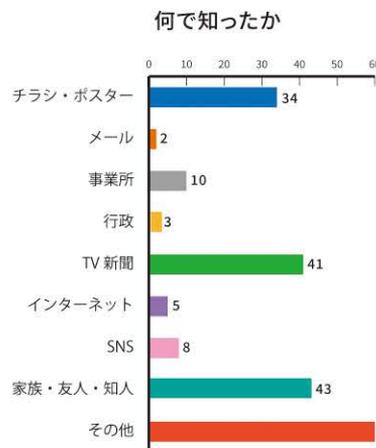
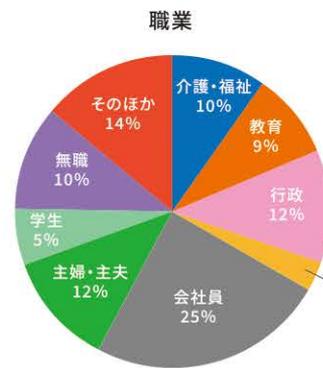
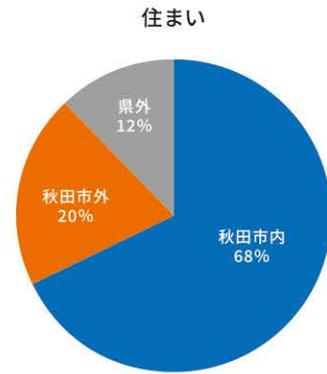
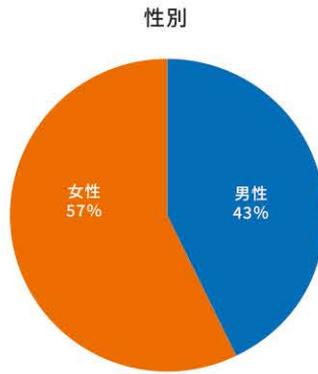
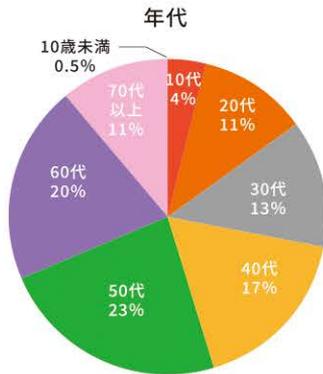
● 来場者アンケート

秋田展

【来場者数】327人

【回答数】209件

【回収率】63.9%



自由記述(抜粋)

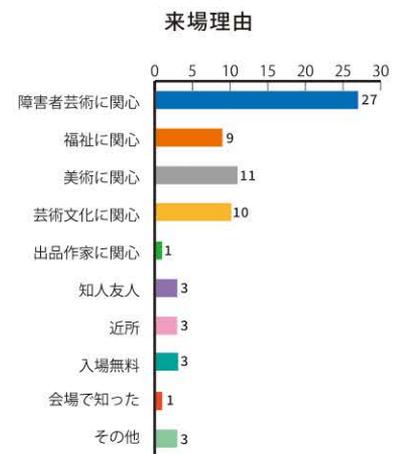
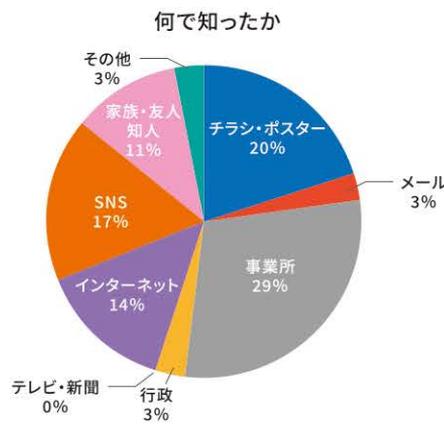
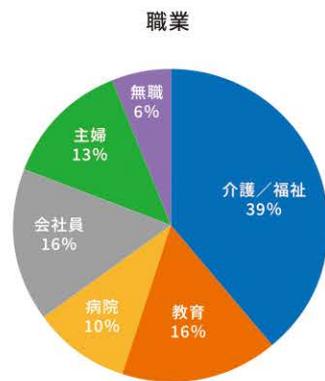
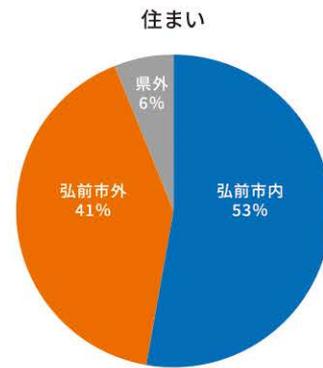
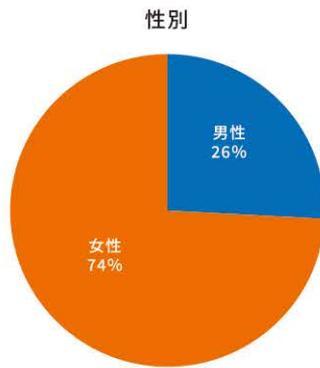
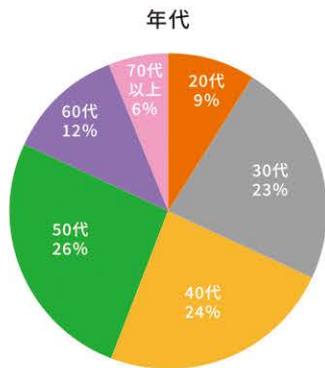
- 情熱がある作品ばかりで刺激を受けました [40代 / 男性]
- 自分も作品を作りたいくなりました。うまく言葉に出来ないけど心に響く作品がたくさんあって刺激をもらいました!! [10代 / 女性]
- とても魅力的な作品が多くあり、これまで以上にアール・ブリュットの分野に関心が強まった。 [20代 / 男性]
- 気になる作品も多くあり、楽しかったです。もし、ポストカードなど売っていれば、買ったかったです。 [20代 / 男性]
- ただ作品を見るだけでなく、各県の支援状況を知れたのが良かった。アールブリュットはエネルギーに満ちあふれているところが好きです。純粋に制作することを楽しんでいたり没頭していたり、元気をもらいます。 [20代 / 女性]

青森展

【来場者数】135人

【回答数】34件

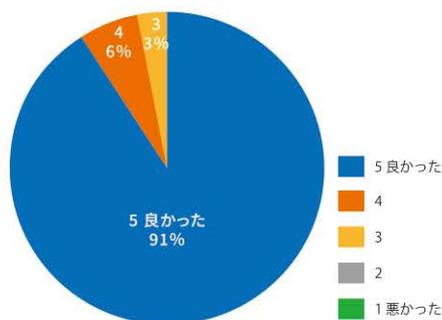
【回収率】25.2%



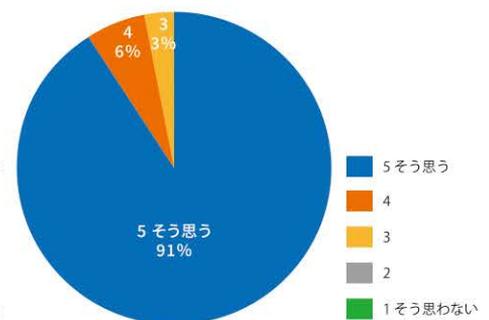
美術展を見に行くことについて



本展を見た感想



本展を見て障害者の芸術やアール・ブリュットへの関心が高まったか



自由記述(抜粋)

- 枠にとらわれない作品ばかりで圧倒されました。 [30代 / 女性]
- 元気、エネルギーもらいました。 [50代 / 男性]
- もっとたくさんの作品をみてみたい。色んな方の色んな作品を。すごい才能ばかりでした!又、きます。 [50代 / 女性]
- 「夢中で」「無心で」制作した、の言葉がとても心地いいと思いました。 [20代 / 女性]
- 限られたスペースでそれぞれの作品を鑑賞しやすく展示されていてとても見やすかったです。 [30代 / 男性]

3. ブロック研修

支援センターは福祉分野の人材が多いことから、芸術の専門家ではないバックグラウンドを持ちながら障害者の芸術文化に取り組んでいけるような視点の研修を実施。ゲスト講師や他ブロックの支援センターの参加を積極的に受け入れることで、支援センター同士の交流の機会を増やし、意見交換や疑問・悩みの共有を促すことで、支援センター自体の質につなげることを目指しました。未実施県の関係者においてはセンター設置に向けた事前研修や情報収集の場として活用していただきました。なお、実施方法は参加者が時間や移動の負担を気にせず参加できるオンライン開催を基本としました。

●相談支援勉強会

【概要】

ブロック内の相談支援の質向上のための勉強会を実施。各センターで実際に寄せられた相談事例の検討の他、商品開発や著作権・法律の専門家を招き、知識の向上にも取り組みました。

第1回 商品開発 7月27日(水) 13:00-14:30

札幌の福祉施設「ともに福祉会」のグッズ作りを通じて事例を学ぶ

【講師】石川則子(社会福祉法人ともに福祉会)

【参加者】5名(支援センター、県担当者)

第2回 創作支援 2月16日(木) 13:00-14:30

創作支援の悩みや疑問を話し合う

【講師】菊地雅子(アトリエ・クーズガーデン代表、学芸員/アートディレクター)

【参加者】4名(支援センター、道内事業所支援員)

第3回 法律相談 3月16日(木) 13:00-14:30

法律にまつわる疑問や困りごとについて気軽になんでも聞いてみる

【講師】井澤慎次、藤田芳康、鍛冶香織(ユナイテッド・コモンズ法律事務所)

【参加者】3名(支援センター)

【実施方法】オンライン開催

【参加人数】第1回:5名、第2回:4名、第3回:3名



●舞台芸術研修

【概要】

舞台芸術分野に対する理解を深めるために、ブロック内外の取組状況や支援の事例を紹介する研修を実施しました。

【内容】

精神障害当事者を中心とする音楽グループの演奏映像の視聴と、担当するソーシャルワーカーとグループメンバーによる活動紹介・質疑応答。

【実施日時】8月25日(木) 10:00-11:30

【実施方法】オンライン開催

【講師】高田大志(浦河ひがし町診療所)+パーカッションアンサンブル

【参加者】4名(支援センター、県担当者、他ブロック支援センター)



●美術研修

【概要】

作品に対する見方や考え方、障害者の作品の傾向をふまえた展示のノウハウなどについて学ぶ研修。

【内容】

福祉分野出身であるセンター職員に向けた入門講座として、海外アーティストのTEDトークを素材に、共生社会の視点でアートの世界に触れるレクチャーを実施。

【実施日時】1月10日(火) 13:00-14:30

【実施方法】Zoomによるオンライン開催

【講師】三橋純予(北海道教育大学岩見沢校 教授)

【参加者】4名(支援センター、道内事業所支援員)

4. 支援センターへの支援

「障害者の芸術文化活動フォーラム」の開催（青森県）

福祉では「支援センター」と呼ばれる障害のある人が創作や鑑賞などの芸術文化活動を行うための支援に取り組んでいます。この支援は支援センターが単独で行うものではなく、社会の中の様々な人や機関とつながることで実現していきます。

このフォーラムでは、支援センターと一緒に「ソーシャルアクション」が広がることを目指して、福祉とアートの間で実践する方々を講師に迎え、お話を伺いました。

【日時】2022年7月16日 13:00-16:00

【会場】青森県立美術館コミュニティギャラリー

【登壇者】

大橋一之（青森アールブリュットサポートセンター／社会福祉法人あーと 理事長）

蒔苗正樹（美術家、アートクリエイター）

千葉潜（医療法人青仁会 青南病院 理事長、公益財団こころすこやか財団）

奥脇嵩大（青森県立美術館 学芸員）

【主催】

アールブリュット推進センター Gently（社会福祉法人ゆうゆう）

青森アール・ブリュットサポートセンター（社会福祉法人あーと）

【後援】

青森県

青森朝日放送株式会社

株式会社青森テレビ

青森放送株式会社

株式会社デーリー東北新聞社

東奥日報社

東奥日報文化財団

陸奥新報社

【助成】

厚生労働省令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業

※青森アール・ブリュットサポートセンター主催

「ありのままの表現展」と連携開催



成果

【参加者数】17人

支援センターの活動をセンター単独のものにとせず、社会の中の様々な人や機関とつながることで実現していくイメージを共有し、青森県の支援センターを中心とするネットワークの拡充を後押しするためにフォーラムを開催。支援センターと一緒に「ソーシャルアクション」が広がることを目指して、県内の教育分野・美術分野・精神医療分野から福祉とアートの実践者を招聘し、各人の取り組みを紹介し、支援センターを中心とする県内の状況と可能性を議論しました。登壇者が相互の取り組んできた活動の成果と現在について改めて知ることで、相互協力の可能性を再確認し、連携への期待を高めることができました。

5. 未実施県への支援

相談支援

【相談実績】45件(北海道35件、秋田県2件、その他6件)

- ・外部アドバイザーの設置(創作支援／商品開発／精神医療／秋田地域／法律)
- ・いろいろな窓口(電話・メール・FAX・HP・LINE)
- ・チラシ配布：2022年7月 6000枚(北海道5400枚、秋田県600枚) ※前年度と同数

支援センター設置に向けた伴走

〈北海道〉

- 令和6年度予算要求に向けた実績づくり

(1) 北海道障がい者のアート展

【概要】

北海道では、障がいのある人の創作活動は長らく積極的に取り組んできた福祉事業所などを通じて全道に広がっており、これまでに多くのユニークな才能の持ち主が各地で存在感を発揮しています。この作品展は、障がいのある人にとって作品や創作表現を通じてコミュニケーションが生まれる場となることを目指して開催します。

第1回

【会期】2022年11月1日～3日 ※3日間

【会場】北海道立道民活動センターかでの2・7

【参加者数】130組

【来場者数】396人



●来場者アンケート / 自由記述(抜粋)

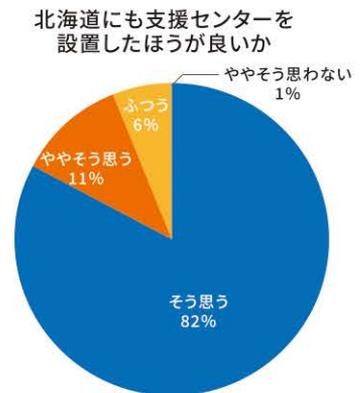
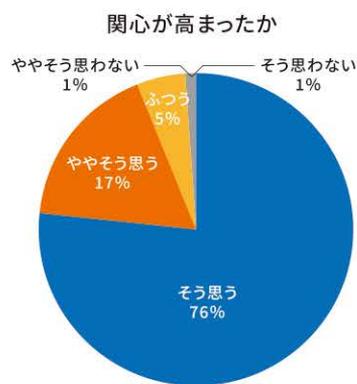
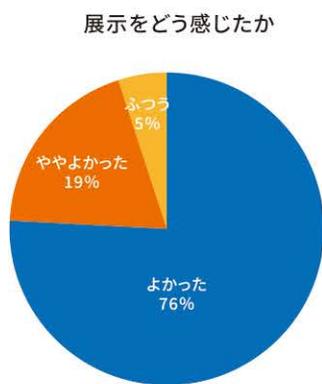
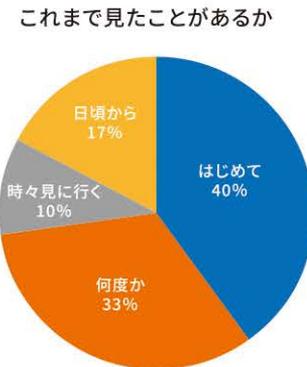
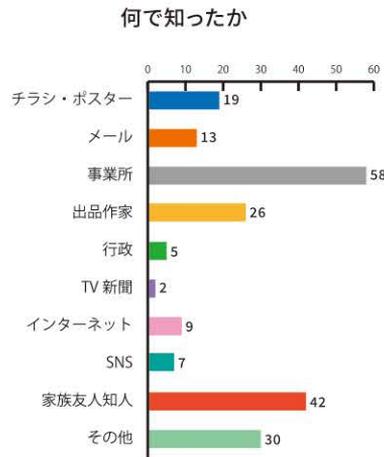
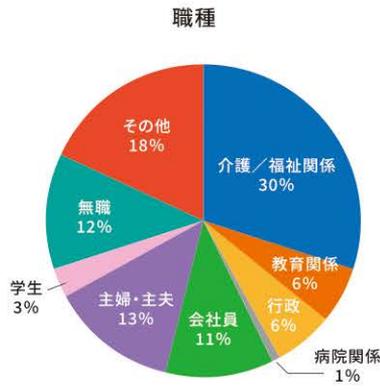
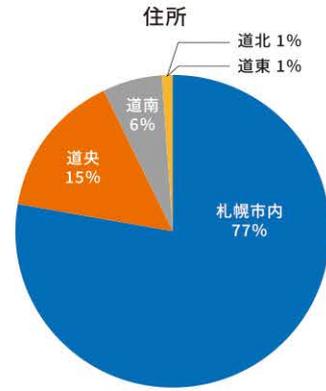
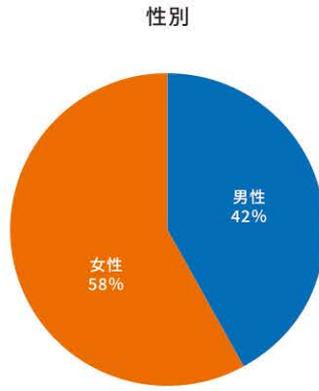
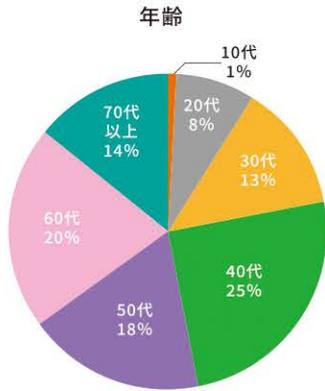
- イラストだけと思っていましたが、立体的な作品があって色々なアートがあるんだなと思いました。 [30代 / 女性]
- 生き生きとした作品が多く作者の思いが伝わりました。こういった取り組みを続けていただき、発表の機会を大切にしてほしい。 [50代 / 男性]
- 作者の年齢等があったらいいと思いました。 [40代 / 女性]
- 今後、障がい者といった区別関係なく、このようなアート展が増えるといいなと感じました。 [30代 / 女性]
- 子どもたちが一生けんめい取り組み、このような形で皆さんに見てもらえるのは非常に光栄です。次回もあれば、ぜひ参加させていただきたいです。 [10歳未満 / 男性]

● 来場者アンケート / 全体

【来場者数】 396 人

【回答数】 209 件

【回収率】 52.8%



第2回

【会期】2023年3月14日～15日 ※2日間

【会場】札幌市民交流プラザ SCARTS

【主催】北海道

【協力】アールブリュット推進センターGently

【参加者数】約150組

【来場者数】582人

●来場者アンケート(抜粋)

- アクリル絵の具作品におけるダイナミックな表現に元気をもらいました。
- 頭の中で考えている個人の世界観等がすごく絵1つ1つにこもっていて感心しました。
- 優劣をつけないことが何よりも素晴らしい。
- より多くの方に観て頂けることで当事者のはげみになり現状を知って頂けることで、当事者もその家族も環境が良くなることもあると考えます。
- アート作品を完成させるまでのサポート方法や補助金などの利用方法等の説明があるといいのでは。

(2)「ほっかいどうナイスハートバザール in アリオ札幌」特別展示

【概要】

支援センターモデルの模索として、提案北海道が企業との包括連携協定で実施している授産所販売会での作品展示。道の取り組み発信および、センターの財源カバーの観点から包括連携協定を支援センター事業への活用を探る試み。

【会期】2022年10月11日～13日 ※3日間

【会場】イトーヨーカドーアリオ札幌店 1階ハーベストコート

【出品作家】佐藤朱美、田湯加那子、蛸子陽太(3名)



●北海道の作家を紹介する継続的な展覧会

(注)この項目は、北海道庁「令和6年度予算要求に向けた実績づくり」に含まれない。

【概要】

北海道アールブリュットネットワーク協議会が取り組む、北海道の作家を紹介する展覧会を支援。会場となるギャラリーは地元企業がSDGs活動の一環として障害のある人の作品を紹介しており、一般企業と共に障害者の芸術文化活動を継続的に発信することで、これらの活動がより広く認知されることが期待されています。今年度は上記「北海道障がい者のアート展」の一部を、テーマを設けて紹介する作品展も実施しました。



会 期	内 容	来 場 者 数
5月9日～5月27日	乗り物で出かけよう～北海道障害者のアート展より～	763人
6月28日～7月22日	北海道の福祉とアート Vol.8「未来への灯を道南から」南北海道知的障がい福祉協会	803人
9月6日～9月30日	北海道の福祉とアート Vol.9「わたしだけの記号」愛灯学園	306人
11月1日～11月25日	北海道の福祉とアート Vol.10 「はじめの一步。展～Hana～」日高アールブリュットネットワーク協議会	836人
12月13日～1月20日	ドラマ／ドラマチック～北海道障がい者のアート展より～	406人
2月7日～2月27日	林田嶺一：ポップ×キッチン×ニヒリズム	377人
3月14日～3月31日	北海道の福祉とアート Vol.11 「カクカクシカジカーみんなのカタチー」岩見沢市内事業所4団体	304人

【会場】NAKAHARA DENKI Free Information Gallery

【来場者数合計】3,795人

6. ブロック内の連携の推進

●ブロック連絡会議

第1回会議

2022年6月6日 15:30-17:00(オンライン会議)

【内容】

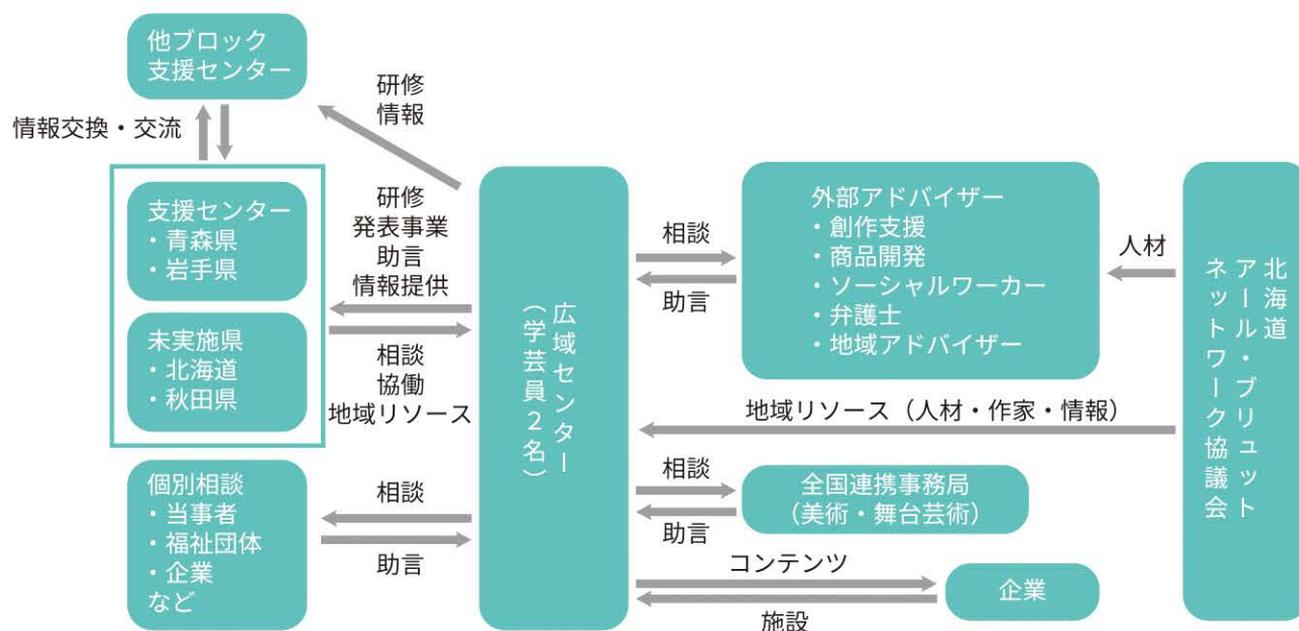
- ・支援センター・広域センター今年度事業計画共有
- ・ワークショップ「改めて障害者の芸術活動を支援する意義を考える」

第2回会議

2023年3月9日 10:00-12:00(オンライン会議)

【内容】

- ・各センター事業報告
- ・次年度に向けた意見交換



7. 情報収集・発信

ホームページ及びSNSによる情報発信

【概要】

ホームページでは、当センターに届く地域の発表活動や参加募集情報を「他団体からのお知らせ」として月毎に作成し、発信しています。シンプルな基本情報と情報の主催者へのリンクに限定し、閲覧者を情報へとリレーすることを心がけています。

またホームページには、2021年のサイトリニューアルの際に「イベント等の情報投稿機能」を設けています。画面に従って基本情報や広報イメージを入力してもらうことで、Gentlyのホームページの中に単独のお知らせ情報を作ることができるので、SNSやホームページを持たない方々にとってより便利なツールであると考えています。残念ながらこれまでの投稿数3件とあまり活用されていないため、必要とする方々に情報発信やその活用方法について知ってもらうための取り組みを模索する必要性を感じています。

SNSにおいても、Facebookで自主事業の発信だけでなく地域の福祉団体等が発信した創作活動・発表情報をシェアすることで、連携する地域の活動の発信を高め、また情報のリレーと集約によって地域の情報HUBとなることを心がけています。

【メディア掲載】14件

- ・秋田魁新報 2022年9月24日 作品通じ障害者理解を
- ・まめぶろマガジン 2022年10月18日 「北海道障がい者のアート展 みんなのイマジネーション」開催のお知らせ
- ・くらしごと 2022年10月24日 北海道の福祉とアート「はじめの一步。展」開催のお知らせ
- ・まめぶろマガジン 2022年10月28日 アール・ブリュット ショウケース2022 出演者募集のお知らせ
- ・まめぶろマガジン 2022年11月9日 外は寒くても心はぼかぼか～北海道障がい者のアート展～
- ・北海道新聞 2022年11月11日 初の個展 外の世界へ一歩
- ・ハビサポ 2022年12月号 アール・ブリュット ショウケース2022 オンライン「舞台上がれ！」
- ・岩手めんこいテレビ 2022年12月16日 仲間と共に音楽を 聴覚障がい男性の挑戦<岩手・紫波町>
- ・まめぶろマガジン 2023年1月16日 アール・ブリュット ショウケース2022 いよいよ配信！
- ・北海道新聞 2023年1月17日 ドラマ／ドラマチック～北海道障がい者のアート展より～
- ・河北新報 2023年1月19日 障害者の芸術 動画で
- ・まめぶろマガジン 2023年2月6日 「北海道障がい者のアート展～みんなのアールブリュット～」開催のお知らせ
- ・北海道新聞 2023年2月18日 現代美術家・林田さん遺作、札幌で展示 希少な風景画や初公開品28点紹介
- ・まめぶろマガジン 2023年3月23日 北海道障がい者のアート展～みんなのアールブリュット～

【事例紹介】2件

厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業の情報サイト内「取組コラム&事例集」において、当センターを含む2つの取り組みが紹介されました。

- ・「支援センターの歩みを振り返り、より個性を生かし、モチベーションを高める活動を支えていく」
アールブリュット推進センターGently
<https://arts.mhlw.go.jp/spc/13362.html>



- ・「あるく、たたく、しゃべるから広がる身体表現」
「何からはじめる？」日常のふるまいや関係性が表現になる
ひがし町パーカッションアンサンブル(北海道)
<https://arts.mhlw.go.jp/spc/13339.html>



【ホームページ】

情報投稿数：33件(前年比+1)、アクセス数(閲覧数)：7,196ページビュー(前年比+1,032(53%増))
ホームページ「イベント情報投稿機能」 利用率：3件

【SNS】

- ・Facebook(北海道アールブリュットネットワーク協議会)
情報投稿数：166件、配信数：5,928件(26.1%減)、閲覧回数：2,907回
- ・Instagram(ゆうゆう芸術文化推進室)
情報投稿数：35件(前年比-7)、配信数：699件(15.7%増)、閲覧回数：532回

●SNS投稿の推移

		R4	R3	R2
Facebook	投稿数	166	108	128
	配信数	5,928	7,737	3,498
Instagram	投稿数	35	42	31
	配信数	699	604	データなし

【広報印刷物】



アール・ブリュット
ショウケース2022
オンライン(募集案内)



アール・ブリュット
ショウケース2022
オンライン(開催案内)



北海道・北東北の福祉とアート
届けたい私たちが出会った表現(開催案内)



障害者の芸術文化活動
フォーラム(開催案内)



北海道障がい者のアート展
(開催案内)

8. 事業評価委員会

【概要】

外部有識者などで構成する第三者評価委員会を年度の終盤に実施し、事業成果について事業評価を行っていただきました。

北海道・北東北ブロック広域センター事業評価委員会

【日時】2023年3月23日(木)15:00～17:00

【実施方法】オンライン会議

【評価委員】

山田努(岩見沢市健康福祉部福祉課 主幹/北海道)

奥脇嵩大(青森県立美術館学芸員/青森県)

竹下敦子(特定非営利活動法人ハックの家 施設長/岩手県)

安藤郁子(NPO 法人アートリンクうちのあかり代表理事、秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻准教授/秋田県)

【事業報告】

大友 恵理(アールブリュット推進センター Gently/社会福祉法人ゆうゆう)

●令和4年度 Gently 事業について評価委員からの評価(抜粋・要約)

- 北海道庁は以前から関わってくれていたが、自ら何かをするということではなく、どちらかというと応援しているという感じであった。それが、道庁自ら公募展を開こうということで、札幌の一等地で実施したことはとても大きな前進でありがたい動き。
- この事業は今、福祉的側面が強く出ているが、障害のある人の作品を通して社会とつながるという社会参加と、文化的に尖った作品が「障害者の」というより芸術作品として素晴らしいということを伝えていくという二つの側面がある。しかし文化として優れた作品も多いので、ゆくゆくはこういった事業がなくなっていった、文化芸術として障害の有無に関わらず一緒に高めていくこと、「障害者の」という枠組みがなくなるというのが将来目指す姿だろうと思う。将来的にはこういう事業自体がなくなることが本当の多様性・共生社会の実現であり、今はその過渡期と思う。その中でゆうゆうの取り組みがいろいろなところに関わっているということが表現されると良いかと思う。

- いろいろな惜しいという印象がある。県における横串の刺し方が活動の中で見えるようになるといいなと素朴に思う。広域センターのHPにたとえば北海道の福祉事業所があることが一覧で見えたり、作品を作っている人たちの情報が簡単に見えたりすると、「自分の地元にはこんな作家、事業所があるから声かけてみようかな」と思うようなマッチングサービスにつながるのではないかな。そのような機能があるだけでここでの取り組みが形になって見えるようになるのではないかな。リアルの数の増加につながるのではないかなと思う。
- 福祉団体がセンターを担うことでそのネットワークの中に自閉してしまうことを懸念している。福祉関係者以外に情報が拡散されない状況が若干あるのではないかな。障害者芸術というのを手立てとしながら福祉の中と外が相互作用していくみたいなことを現象として作れたりするのではないかな。
- 展示企画への参加募集がたくさんあるが、それらが連携して整理されて展示会の時期が被らないサポートをしてもらえたらと感じていた。もう少し時間をかけて横の連携が取れたら、取り組み自体は面白いと思うので楽しみにしている。発表の場が整理されてみなさんに見てもらえる状況になると、芸術として自分たちのアートがみなさんに見てもらえる場所になると思った。
- 地域共生社会と縦割りではない社会のあり方の推進に対して、この事業が今の時代にあっていないのではないかな。展示会は誰のためなのか。障害のある人の作品を障害のない人に見せる構造になっているのではないかな。実際には当事者同士の交流もあると思うが、少し前の仕組みがそのままセンターとしてやらなければいけないことになっていて、もう時代に合っていないのではないかな。そういうことを北海道・北東北ブロックから提案して、国全体の方針として、もっと地域の障害のある人が表現するというのが、当事者にもよいし文化として育っていきけるような、そういう事業にしていってほしい。
- 県独自の特徴や、アート、舞台芸術をどう捉えるのか、もっと特徴を出せるような事業の仕組みになるといい。運営団体であるゆうゆうのことを最近聞いており、福祉実践を北海道の中で地道に制度のはざまになるような部分の事業もたくさんしているので、アートと福祉の現場が切り離されずに、当事者の生きていることやプロセスもこの事業に見える形になるといいなと思った。
- ブロック内にある魅力的な取り組みを、連携や互いに知り合うような何かがあっても良いのではないかな。
- 相談支援事業について、当事者が知的障害や精神障害のある方がそこにつながって実際に発表・販売できるかという相当スモールステップで、伴走支援がないと実際の支援に繋がらないと思う。結局センターでできるのは、当事者に直接ではなくて支援者育成に重点をおくべきだろうと思う。県の中に、興味をもって取り組める人材をつくって、そこから当事者たちに丁寧に繋げていく方が現実的かなと思った。
- 事業の中で「持続性」について挙げているが、ここ数年でコロナの関係もあり思うように物事が出来ない時期が長かったため、持続性に課題意識を持ってタイムリーな目標設定と思う。

●まとめ

令和4年度は各センターの現状を見つめ、その成果を振り返る年として事業を実施してきましたが、青森県・岩手県ともそれぞれの地域課題や事業目標に向かって歩みを進めていることを確認できました。当センターも研修やフォーラムの開催、そして美術と舞台の発表の場を通じて、センター自体の取り組みと存在感を発信することを試みました。これはセンターの活動を後押しすると同時に、未設置県への発信によって設置の機運を高めるねらいもありました。

事業評価委員会では、一定の評価を得ると同時にさっそく次のステップへの課題と期待が示されたと言えます。人材育成、情報共有を含むネットワークの充実、そして共生社会を見据えるビジョンなどが挙げられますが、本事業の基礎的な環境モデルがようやく実践・共有されるようになったことで、今後はこれを地域全体に広げ充実させることが次の目標となります。

なお、本事業における次年度からの大きな変化として、これまでの「発表の機会の確保」が、「芸術文化活動に参加する機会の確保」へと変更されます。これは支援の対象が「発表」だけでなく鑑賞・創造・発表等あらゆる活動へ広がることを意味します。すでに全国の支援センターの間で共有され取り組みも始まっていることですが、私たちの取り組むべきこととして明確に位置付けられました。こうした動きも事業評価委員会の意見と軌を一にするものと言えるでしょう。

多様な人々が芸術文化を享受するための支援と環境整備には、幅広い領域が協力し合う必要があります。この事業のネットワークが広がるために、より多くの方々に支持・共感してもらえるような提案と実践を目指していきたいと考えます。

IV. 支援センターの取り組み

〈青森県〉

青森アール・ブリュットサポートセンター (AASC)

2017(平成29)年度より障害者芸術文化活動普及支援事業を受託し「青森アール・ブリュットサポートセンター」を設置しました。障がいのある人からの創作環境や芸術文化の鑑賞に関する相談や、著作権の保護や二次利用に関する相談など幅広く対応し、展示会やセミナーを開催しながら、青森県内の芸術文化活動の活性化を目指しています。

● 事業状況



● 事業概要

〈相談支援〉

- 相談窓口

〈人材育成〉

- 支援者養成巡回プログラム
- 広域センターフォーラム青森会場の開催協力
障害者の芸術文化活動フォーラム アートでつながるソーシャルアクション

〈関係者のネットワークづくり〉

- 協力委員会

〈発表の機会の確保〉

- 青森ありのままの表現展
- 常設展示会(模擬展示)
- 作品の保管及びデータ管理
- 北海道・北東北ブロック合同展 青森会場 開催協力

〈情報収集・発信〉

●相談支援

【相談件数】58件

【相談方法】電話、メール

【主な相談内容及び対応状況】

- ・創作活動に取り組むが、作品保管の場所が限られているので作品保管サービスについて話を聞いてみたい。
→センターで実施予定の作品保管サービスについて紹介する。
- ・個展を開きたいと思っているが、どのようにしたらできるだろうか。
→個展を開催するにあたっての会場を紹介する。また、予算などのことも相談しセンターで開催している公募展についても紹介する。
- ・作品の発表したいと思っているが、そのような場所や展覧会はあるのか。
→センターで開催している公募展を紹介する。

●人材育成

支援者養成巡回プログラム

【実施日時】令和4年9月26日～28日、12月6日～8日

【実施会場】社会福祉法人あーと、社会福祉法人ほほえみ、合同会社とわだみらい

【講師】板垣 崇志

【参加人数】60名

【概要】

日々の創作活動に関する疑問や悩みなどへの支援として、コンサルティングと研修を開催。研修では、創作活動支援の基本となる画材の使い方に関する内容に加えて、リフレーミングというマイナスに捉えてしまうことをプラスへ置き換える考え方を実践し、利用者の困りごとなど、見方や考え方を変えると彼らの表現となることを学びました。

【評価(アンケートのコメント等)】

創作活動とは、その人を肯定する時間であり、内面を色・形で表現する時間であるとし、創作活動支援とは活動の機会の提供や画材の選択の幅を広げたりすることなどであると理解を深めることができた。



広域センターフォーラム青森会場の開催協力(ありのままの表現展との併行開催) 障害者の芸術文化活動フォーラム アートでつながるソーシャルアクション

【実施日時】令和4年7月16日 13:00～16:00

【実施会場】青森県立美術館 コミュニティギャラリー

【講師】大橋 一之、蒔苗 正樹、千葉 潜、奥脇 嵩大

【参加人数】17名

【概要】

持続性のある支援センターを目指すため、地域へ今まで以上に支援センターとしての取り組みを知っていただくべく、まず青森県における支援センターの取り組みを実践報告しました。また、美術館学芸員や美術家など他の分野での障害者芸術におけるソーシャルアクション事例を紹介していただきました。また、支援センターも含めて、講師と対談を行うことで支援センターが単独で行うものではなく、社会の中の様々な人や機関とつながることで実現していくことを発信しました。

【評価(アンケートのコメント等)】

様々な職種によるソーシャルアクションの事例紹介を通して、青森県内でも様々な障害者芸術文化活動がなされていることを知ることができたなどの感想をいただいた。

●関係者のネットワークづくり

協力委員会

【担当者】 錠前 一真

【日時】 令和4年6月2日、令和5年3月17日

【実施内容】 事業計画及び事業報告の共有とセンターの活動に関する意見交換

- ・事業計画の共有と意見交換
- ・令和4年度の活動報告と令和5年度の事業運営に向けての意見交換

●発表の機会の確保

ありのままの表現展 2022

【種別】 作品の発表(美術)

【実施日時】 令和4年7月16日(土)～23日(土)

【実施会場】 青森県立美術館会場 コミュニティギャラリー

【参加者数】 250名(展示作家数)

【概要】

青森県内の福祉事業所、養護学校等へ作品募集し、過去最多となる250点の応募がありました。応募者全員の作品展示に加えて、すべての作品に賞をつけて、賞状をお渡しすることで創作意欲を引き出すことに繋がりました。

【評価(アンケートのコメント等)】

「『ありのまま』を表現する素晴らしさ、輝きを拝見しました」様々な視点で、皆さん作ったりしていて、クリエイティブだなと思いました。こういうイベントを続けてほしい。」などの感想をいただき、来場者の8割以上から満足したという回答を得ることができました。



常設展示会(模擬展示)

【種別】 作品の発表(美術)

【実施日時】 令和5年2月

【実施会場】 社会福祉法人あーと Colere-on(青森アール・ブリュットサポートセンター事務所)

【参加者数】 なし

【概要】

常設展の開始に向けて、21作品を展示してシミュレーションを実施。次年度以降は、地域の方々が作品を身近で触れる機会とすることで障害者芸術の魅力発信へと繋がっていきます。

【評価(アンケートのコメント等)】

今後は、作品保管サービスを利用している作家を中心に展示数を増やしていくとともに、展示内容も3ヶ月に1度を目処に入れ替え等を実施していきます。

作品の保管及びデータ管理

【種別】 作品保管

【実施日時】 令和4年度

【概要】

家庭や事業所で保管ができない作品に関して、作品の保管及びデータベース化に取り組む。また、作品保管を実施していく上で規約や契約書の作成、作品保管庫の整備、パンフレットの作成等を実施しました。

【評価(アンケートのコメント等)】

次年度からのサービス開始に向けて準備を行いました。また、「創作活動に取り組んでいるが、作品保管の場所が限られているので作品保管サービスについて話を聞いてみたい。」などの相談にも対応しました。

北海道・北東北ブロック合同展 青森会場 「届けたい 私たちが出会った表現」

【種別】発表の機会(美術)

【実施日時】令和5年3月4日(土)～10日(土)

【実施会場】galleryCASAICO

【参加者数】21名

【概要】

北東北地区(北海道、青森県、秋田県、岩手県)の作家21名の作品展示を行い、障害者の芸術文化活動について普及啓発を図りました。また、パネルにて支援センターの取り組みの紹介も合わせて行い、支援センターの取り組みに関する情報発信も行いました。

【評価(アンケートのコメント等)】

展示会後には、「展示の様子を見て、私も作品展に応募してみようと思った。」「展示されている作品を購入したい。」など前向きなコメントをいただくことができました。



●情報収集

【概要】

全国連絡会議や北海道・北東北ブロック協議会等に参加。会議を通じて、全国の各支援センター・広域センターの取り組みやイベント情報を収集し、県内の事業に活用。

【成果】

青森県内各地の情報収集をセンタースタッフだけで行っていくのには限られてしまいます。しかし、会議に出席したり、県内外の関係機関と関わっていくことで情報が得やすい地域の情報収集にも繋がっています。また、得られた情報から公募展の応募等にも繋がっています。

●情報発信

【概要】

HPでの情報発信を中心に、Facebookも活用して情報発信を行ないました。

【成果】

- ・ウェブサイト投稿数 9 件
- ・閲覧数 419 件

●まとめ

今年度は、作品発表の機会となる「ありのままの表現展」と福祉現場における創作活動支援となる「支援者養成巡回プログラム」の2本の柱に加えて、新たに作品保管サービスとその作品の地域へ発信する常設展の準備を中心に事業を進めました。

ありのままの表現展は、過去最多の応募数を上回り、250点以上の作品の応募となった。これまで養護学校の作品が中心でしたが福祉事業所や個人による応募も着実に増えつつあります。応募作品を見ると、絵画や書道、立体作品など作品の幅も広がりがみえ、色使いや素材の使い方にも変化が見られ作家の様々な表現が見られるようになりました。

また、例年取り組んでいる「支援者養成巡回プログラム」は、今年度も板垣崇志氏をコンサルタントとして招聘し、県内3箇所の福祉事業所で支援者養成巡回プログラムを開催。今年度は、新たに十和田市の合同会社とわだみらいで開催しました。「創作活動という言葉でハードルがあがってしまい、どのように取り組ん

だら良いのかわからない。」「どんなものを使うのが良いのかわからない。」などの声に対して、創作活動支援の基本を中心にコンサルティングと研修を開催しました。

近年では、創作活動に取り組む福祉事業所も増えつつある一方で、「作品の保管場所がなく破棄せざるを得ない。」という声も挙げられています。そういった声に対応すべく作品保管サービスを開始することにした。協力委員へ助言をいただきながら、作品の保管庫の準備を進めた。また、預かった作品を地域へ公開する常設展の開催に向けてシュミレーション展示も行いました。

公募展の応募作品数やセンターへの相談件数からも成果は着実にみられており、次年度からは作品保管サービスや常設展を本格的に取り組んでいく予定です。すでに作品保管に関して、相談はよせられており、この二事業が本格稼働することで更なる事業の効果が期待できます。

〈岩手県〉

岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあるとは、社会福祉法人岩手県社会福祉事業団が岩手県より委託を受け、2018(平成30)年に開設しました。支援センターの愛称である「かだあると」は「参加する、集う、加わる」という意味の岩手の方言と、「かだる」とエスペラント語で芸術を意味する「Arto(あると)」を組み合わせた造語です。障がいがあっても無くても誰もが参加できる「創作・表現」の場を作ることを大きな目標に掲げ、相談業務、各種研修会の開催、公募展の開催を通し、岩手県内の障がい者文化芸術の裾野を広げるために活動しています。

● 事業状況

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
相談支援	事業年度中随時受付											
人材育成				8/23 : 創作活動に関する権利保護研修会			10/7 : 障がいのある人の創作障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会① 3/13 : 障がいのある人の創作障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会② 3/17 : 障がいのある人の創作障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会③					
指導者の派遣							10/4~3/20 : 障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス					
発表の機会の確保				11/24~12/19 : 第30回岩手県障がい者文化芸術祭 11/24~12/19 : 応募作品展 9/23 : いしがき MUSIC FESTIVAL2022				12/3 : ふれあい音楽祭2022 12/18 : 記念式典(応募作品展表彰式)				
情報収集・発信											3/3 : 作家及び作品や取組事例の調査① 3/10 : 作家及び作品や取組事例の調査②	

● 事業概要

〈相談支援〉

- 相談窓口

〈人材育成〉

- 障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～福祉的支援からアート支援へ～
- 創作活動に関する権利保護研修会
- 障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～施設・事業所等管理者編～
- 障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～しる・つながる・ひろげる～

〈指導者の派遣〉

- 障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス

〈情報収集・発信〉

- 作家及び作品や取組事例の調査

〈発表の機会の確保〉

- 第30回岩手県障がい者文化芸術祭
 - ・応募作品展
 - ・ふれあい音楽祭 2022
 - ・記念式典(応募作品展表彰式)
- いしがき MUSIC FESTIVAL2022

●相談支援

【相談件数】20件

【相談方法】メール、電話及び研修会併催の個別相談会での対面相談

【主な相談内容及び対応状況】

- ・作品づくりに励んでいるので、公募展等の情報について教えていただきたい。
→当センターに全国の支援センターや美術館等から公募展の案内が届くため、相談者あて情報提供を行うこととした。
- ・漫画を描いているので販売したいが、自費出版に向けた経費の捻出が難しい。無料で出版、販売できる方法はないか。
→アドバイザーより、原稿をPDF化してオンライン出版できる方法についてアドバイスいただく。
- ・次年度、障がいのある方の生涯学習について、地域の関係機関職員を対象とした研修会開催を企画中。
創作活動を通しての障がいのある方のサポート等についてご講義いただける講師の斡旋をお願いしたい。
→当センターのアドバイザーに内容を確認し、講師依頼を行うこととした。

●人材育成

障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～福祉的支援からアート支援へ～

【実施日時】令和4年10月7日(金) 13:00～17:00

【実施会場】盛岡市中央公民館 大会議室、企画展示室

【講師】るんびにい美術館 アートディレクター 板垣崇志氏

【参加人数】10名

【概要】

福祉的支援の常識から、創作支援への意識変革を促すワークショップと作品展示に関するワークショップ。

【評価(アンケートのコメント等)】

- ・利用者の方の表現のあり方について、日常の支援を振り返りことができました。
- ・展示のワークについて、初めて方法を学ぶことができた。今後の展示に役立てたい。



創作活動に関する権利保護研修会

【実施日時】令和4年8月23日(火) 13:00～17:00

【実施会場】紫波町情報交流館 大スタジオ

【講師】

- ①石川法律事務所 弁護士 松岡佑哉氏
- ②岩手県文化スポーツ部文化振興課文化芸術担当課長 鈴木 亨氏
- ③一般財団法人たんぼの家 スタッフ 後安美紀氏
- ④一般社団法人たんぼの家/エイブルアートカンパニー スタッフ 大井卓也氏

【参加人数】3名

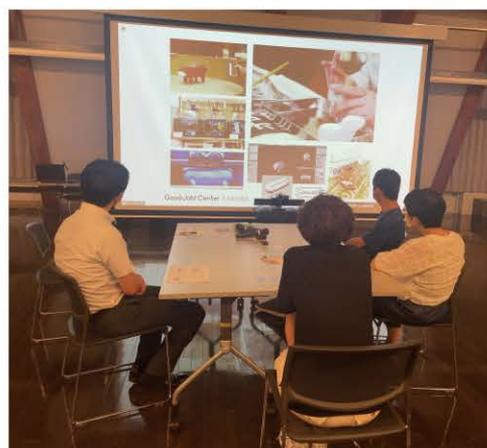
【概要】

法律の基本、法的解釈や著作権の基本について。

- ・岩手県策定の権利保護に関する指針の説明。
- ・たんぼの家制作のカードゲーム「知財でポン!」の活用により、著作権を分かりやすく学ぶことができた。

【評価(アンケートのコメント等)】

- ・事業所で行っている創作活動について、利用者の尊厳等を守るために法律等が細かく定められていることを初めて知った。
- ・法律についての講義が分かりやすかった。さらに、カードゲームを通して学べたので理解が深まった。



障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～施設・事業所等管理者編～

【実施日時】 令和5年3月13日(月) 13:30～15:30

【実施会場】 矢巾町情報交流センターやはばーく 会議室

【講師】

① 特定非営利活動法人はあと舎
地域活動支援センターはあと舎 施設長 古館 美奈子氏

② 社会福祉法人花巻ふれあいの里
福祉会障害福祉サービス事業所こぶし苑 目標工賃達成指導員 小野寺 千枝子氏

【参加人数】 4名

【概要】

事業所運営において権限を持つ職員が主な対象。先進団体の取組紹介、社会とのつながりをテーマにしたパネルディスカッションを実施。

【評価(アンケートのコメント等)】

- ・コロナ禍で他の事業所がどのような創作活動の取組をしているかを知る機会が持てていなかったのが、参考になった。
- ・支援者・利用者という立場で支援を行っていたが、一緒に活動を楽しむ姿勢を大切にしたい。



障がいのある人の創作・表現活動支援に関する研修会 ～しる・つながる・ひろげる～

【実施日時】 令和5年3月17日(金) 13:30～15:30

【実施会場】 紫波町情報交流館 大スタジオ

【講師】 甲南大学文学部人間科学科 教授 服部 正氏

【参加人数】 20名

【概要】

創作活動において、作り手となる利用者・支援員の関わりにおいて何を大切にすべきなのか、その視点を振り返る講義・ワークを実施。

【評価(アンケートのコメント等)】

- ・事業所で取り組んでいる創作活動が、全国的な条例に基づいて行うことになっているということを初めて知った。
- ・支援者の視点で取組を進めがちになっていたが、利用者寄りになり、作品に対して「こうあるべき」という概念を取り外して臨みたい。



● 指導者の派遣

障がいのある人の創作活動支援ワークショップアドバイス

【実施日時】

- ・聞き取りミーティング 令和4年10月4日(火)
- ・職員向け講習会 令和4年12月5日(月)
- ・利用者向けの実践 令和4年12月12日(月)～令和5年1月下旬

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、施設のみでの実施。内容については振り返りの際にご報告いただくこととしたもの。

【実施会場】 生活介護センターいちご園

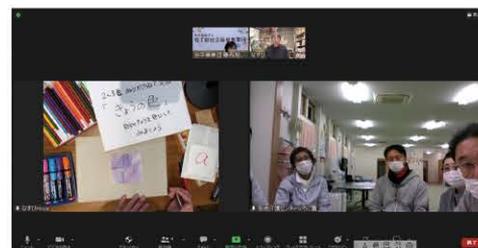
【講師】 prop 代表 那須賢輔氏

【概要】

障がい者の文化芸術活動に取り組む施設・事業所に指導者を派遣し、実際の創作活動の中で実践的な創作活動の手法等に関する指導を行うもの。さらに、振り返り会から約1か月後、実施事業所での活動の変化について、改めてご報告いただきました。

【評価(アンケートのコメント等)】

利用者の様子や活動の内容から、ワクワクするようなメニューを考案していただいた。／支援者側がまず楽しみながら取り組み、利用者へ提供する際にも工夫を凝らしながら活動を展開することができた。／取組を進めていく中で、利用者の変化(作品展に出したい、もっと絵を描きたい、作風が変わってきたなど)が見られたので、支援者のモチベーションにも繋がった。



● 発表の機会の確保

第30回岩手県障がい者文化芸術祭 応募作品展

【実施日時】令和4年11月24日(木)～12月19日(月) ※ふれあいランド岩手休館日である毎週水曜日を除く

【実施会場】ふれあいランド岩手 エントランス～ふれあいホール前

【概要】

県内の障がいのある人の、日ごろの文化芸術活動の成果を発表する機会として、障がいのある個人、団体等を対象に実施する公募展。
絵画、書道、写真、工芸、文芸の5部門。

【応募数】応募総数357点(絵画部門169点、書道部門26点、写真部門21点、工芸部門117点、文芸部門24点)

【観覧者数】11,937名



第30回岩手県障がい者文化芸術祭 ふれあい音楽祭 2022

【実施日時】令和4年12月3日(土)

【実施会場】ふれあいランド岩手 体育館

【概要】

障がいの有無にかかわらず、県内で舞台芸術に関する活動を行っている個人または団体による、歌、楽器演奏、ダンス等を発表していただきました。

【応募団体】11団体

(うち1団体は新型コロナウイルス感染症流行のため、参加辞退)

【観覧者数】66名



第30回岩手県障がい者文化芸術祭 記念式典(応募作品展表彰式)

【実施日時】令和4年12月18日(日)

【実施会場】ふれあいランド岩手 ふれあいホール

【概要】

応募作品展入賞者(最優秀賞、優秀賞、特別賞、佳作)への賞状授与



いしがき MUSIC FESTIVAL2022

【種別】外部音楽祭との連携業務

【実施日時】令和4年9月23日(金・祝) 出演時間11:00~11:45

【実施会場】川徳前特設ステージ(カワトクステージ)

【参加者数】①のびっこ寮育センター ②KING GUNS and ROGUE GUNS

【参加人数】4名

【概要】

岩手県盛岡市内中心市街地で毎年開催される、まちなか音楽フェスティバル。3年ぶりの開催となり、障がいのある方が所属する音楽団体は2団体出演しました。



●情報収集・発信

●作家及び作品や取組事例の調査

【概要】

第30回岩手県障がい者文化芸術祭応募作品展の作品より調査先候補を挙げ、協力委員に助言をいただきながら調査先を2か所決定。

①特定非営利活動法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ 生生学舎アダージョ

【調査日】令和5年3月3日(金)

【施設の取組状況】

創作活動の時間は利用者各々で決めて取り組んでいただいている。主に創作活動に取り組んでいるのは、自立訓練の対象利用者。毎日取り組む方から週3日で行き合っている。作品としては、絵画、手芸(編物、裂き織り)、木工等。制作の延長で商品作りも行っている。

・佐藤 孝行さん

入所8年目だが、絵を描き始めたのは3年目。コロナ禍により外出や事業所への通所制限があった時期からなんとなく絵を描き始めたとのこと。当初は色鉛筆も使用していたが、カラーペンを使用すると心が落ち着く、集中できることから、現在はカラーペンのみ使用。応募予定の公募展に向けて制作中。



・田村 菊代さん

数年前のくも膜下出血発症により中途失明。リハビリを経て事業所入所。失明前から編物は行っていたが、全盲となった現在も継続して取り組んでいる。白黒や色の明暗を感じ取りながら編み上げていく。細かな配色のモチーフは職員に毛糸の色を指定して渡してもらっている。作品として出品する傍ら、編みぐるみ等の商品も制作している。

②宮古市身体障害者福祉センター・地域活動支援センターかねはま

【調査日】令和5年3月10日(金)

【施設の取組状況】

陶芸・七宝・書道・大正琴・手芸をそれぞれ月数回取り組んでいる。講師を招いて活動も行ってはいたが、ほとんどの活動は職員主導によるもの。年々高齢化が進み、参加人数が減少傾向だが、意欲的に取り組んでいる利用者もいるため、職員もその姿勢に感化され、各活動内容に幅が広がってきている。

・上山 光雄さん

定年後、陶芸の講師の方と知り合いだったことから、陶芸を開始。現在まで14年間、講師の作品を思い出しながら試行錯誤を重ねて制作を行っている。陶芸を始めるまでは創作活動に携わった経験がなかったが、絵付けにも挑戦。可愛いテイストの作品に仕上がっている。



・埜崎 愛子さん

東日本大震災後に仮設住宅に入居。サポートセンターへの支援の方々の勧めで手芸を始める。洋服のリメイク等裁縫は日常的に行っているものの、創作活動としての手芸は初めて。手先が不自由であるが、作品はかなり精巧。紙紐細工でランドセルを作ったり、季節の飾りを作っては地域の小学生にプレゼントしている。枝や木の実、身の回りにある物を大事にとって置き、作品に活用している。

●まとめ

今年度はコロナ禍3年目となり、基本的な感染症対策を十分に講じ、工夫を凝らして取り組んできました。特に、記念すべき第30回の節目を迎えた、岩手県障がい者文化芸術祭では、ふれあい音楽祭及び記念式典(応募作品展表彰式)が3年ぶりの開催となりました。コロナ禍で思うように音楽活動ができなかった団体にとって、ようやく発表機会を得られたイベントとなり、今後の活動に向けた第一歩となったように思われました。また、記念式典についても、長い時間をかけて制作した渾身の作品を会場の皆から称賛され、今後の創作意欲に繋がる貴重な場になったと、入賞者よりご意見をいただくことができました。

その他の業務については、センター運営5年となった経験から岩手県内の支援者等のニーズを汲み、法律についての理解を深

めるためのカードゲームの導入や創作活動を誰のために行うべきなのか、障がいのある方の創作活動支援の根本を考える講義を設定しました。

そして、多様化していく相談内容やコロナ禍により改められた生活様式がもたらした県内福祉サービス事業所等の取組の変化を受け、センター運営のあり方について見つめ直しながら業務に当たる一年となりました。感染拡大防止の観点から、オンラインを併用に取り組んできましたが、参加のしやすさは上がった一方で、内容によっては効果が弱くなる傾向にあると感じました。今一度、業務内容の目的を達成すべく、岩手県内の支援者が求める、あるいはセンターとして必要と思われる取組の提供を、全国のセンター事例を参考にしながら検討していきたい。

センター一覧

広域センター

アールブリュット推進センター Gently

実施団体：社会福祉法人ゆうゆう

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18

社会福祉法人ゆうゆう内

Tel 0133-22-2896 Fax 0133-23-0811

E-mail gently@yu-yu.or.jp

<http://gently-artbrut.com>



支援センター

青森アール・ブリュットサポートセンター (AASC)

実施団体：社会福祉法人あーると

〒037-0017 青森県五所川原市漆川鍋懸148-2

社会福祉法人あーると内

Tel 0173-26-1021 Fax 0173-26-1021

E-mail aasc@aorld.com

<https://www.aasc.jp/>



岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

実施団体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団

〒020-0114 岩手県盛岡市高松3丁目7-33

社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 事務局内

Tel 019-656-7081 Fax 019-681-2514

E-mail kadarto@iwate-fukushi.or.jp

<http://www.iwate-fukushi.or.jp/>



厚生労働省 令和4年度障害者芸術文化活動普及支援事業

北海道・北東北ブロック報告書

発行日 2023年3月31日

編集・デザイン 有限会社トライアド

発行

アールブリュット推進センターGently

事務局 社会福祉法人ゆうゆう

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18

Tel 0133-22-2896

Fax 0133-23-0811

E-mail gently@yu-yu.or.jp

URL <http://gently-artbrut.com>

発行責任者 大原 裕介



アールブリュット推進センター

Gently